

実践講座Cコース 第1回講座 2016.5.22

近藤嘉男とラボンヌの歴史

春原 史寛

資料(新聞記事)提供・調査協力: 染谷滋氏(元富岡市立美術博物館館長)、アーツ前橋



広瀬川美術館(1997年開館、近藤嘉男 旧自宅・アトリエ〔1948年〕)



広瀬川美術館(1997年開館、近藤嘉男 旧自宅・アトリエ〔1948年〕)

近藤嘉男(1915-79)

- 前橋市生まれ。実家は豎町(現、千代田町)の砂糖卸商「朝野屋」。
- 桃井小学校(現、前橋市立桃井小学校)卒業。旧制前橋中学校(現、群馬県立前橋高校)入学、東洋商業専門学校(現、東京都千代田区・東洋高等学校)に転校。同時に画塾・川端画学校(東京都小石川)に通う。さらに前橋市立商業学校(現、群馬県立前橋商業高等学校)に転校。
- 二紀展に出品。同人となり、二紀会群馬支部を結成(1948年)。1950年の群馬県展に招待出品、審査員として参加。1966年の前橋市民展発足時には運営委員・審査員として尽力。

ラボンヌ(1947-79)

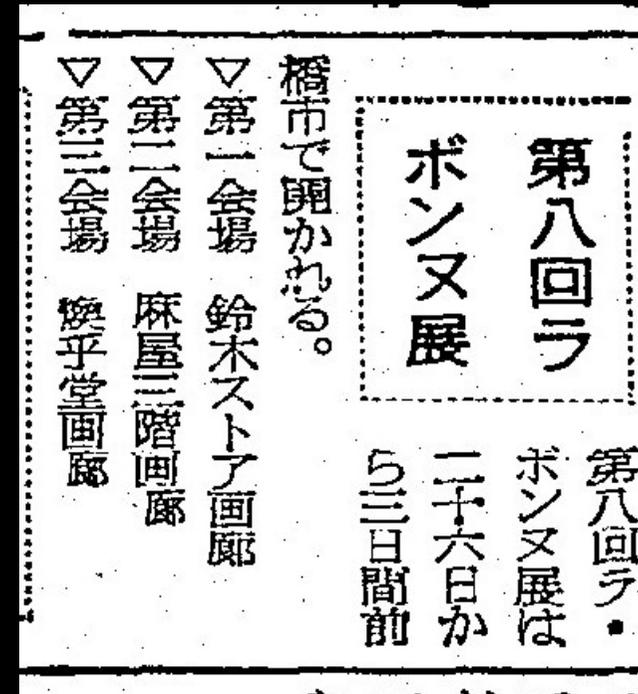
- 1947年、近藤32歳の時、絵画教室「ラボンヌ」子どもクラスを設立。以降、32年間にわたって「ラボンヌ」展を開催。
- 「ラボンヌ」は展覧会場としても活用。宮本三郎、熊谷守一ら、二紀会を中心とした当時の著名画家の展覧会を行った。
- 遠方からも多数の生徒。まだ前橋に画材店がなかったころに、東京で絵の具などを仕入れ、「ラボンヌ」内での販売を行うなど、地域への美術の普及を実践。
- 教室では子どもの表現の実験性や自由さが重視された。
- ・前橋でのクラスのほかに、渋川および太田でもクラスを開講。
- 「ラボンヌ」の子どもクラス出身者は延べ数千人。美術教師、デザイナー、美術館学芸員など多くの美術の関係者も。

⇒地域の学校外の実術教育の拠点



広瀬川美術館 1階

ラボンヌ展の主な展示会場



「第八回ラボンヌ展」
『上毛新聞』1956年10月24日



生活造型実験室(1957-?)

- 1957年、近藤42歳の時に大人向けの絵画教室「生活造型実験室」(のちに「造型ルーム」と改称)を開講。
- 講師に著名な美術批評家や画家を招いた。
- 生活に接近した工芸や手芸も含んだ講座が行われた。
- 開講期間は2年ほど？

⇒生活と美術の融合

